

沖縄県新型コロナウイルス感染症発生動向報告

沖縄県疫学・統計解析委員会

【現状】

新規陽性者数・実効再生産数

沖縄県における先週（5月2日-5月8日）の新規陽性者数は11,182人（先々週9,448人）でした。沖縄本島（周辺離島を含む）における先週の実効再生産数(R)^{*1}は1.17 [最小値0.51-最大値1.90]、このうち那覇市は1.15 [0.68-1.64]でした。また、宮古は1.13 [0.71-1.93]、八重山は0.82 [0.37-1.26]でした（図1）。大型連休中は医療機関や検査所の休業等の影響から、検査数が減少する傾向にありますが、報告される陽性者数は減少しませんでした。潜在的には、未報告の感染者が多数いるものと考えられます。

*1：最終日を除いた直近7日間における日別推定値（平均値）の平均値。[]内は、直近7日間における日別推定値（平均値）の範囲（最小値から最大値）を表す。

年齢階級別推移

年齢階級別では、10代が2,397人（22%）と最多であり、30代1,713人（15%）、10歳未満1,700人（15%）と続きます。性差では、20歳未満で男性が多いのに対して、20歳以上では女性が多いことが特徴です（図2）。また、10代において急速に増加して最多が続いていますが、高齢者を含めて全世代で感染が拡大しています（図3）。

保健所管区別

保健所管轄区域別（7日間合計）では、北部571人（先々週349人）、中部3,852人（先々週3,212人）、那覇市2,381人（先々週1,921人）、南部3,396人（先々週2,978人）、宮古646人（先々

週576人）、八重山216人（先々週364人）でした（図4）。八重山を除いて全県的に感染が拡大しており、中部、那覇市、南部、宮古は第6波を越えて最多となっています。

県外からの渡航者は105人（先々週47人）であり、大型連休により渡航者の感染確認も倍増しています。渡航元は、東京都が最多で11人、愛知県6人、福岡県6人、神奈川県5人、北海道4人と続き、16都道府県にわたります。

入院患者数推移

先週の新規入院患者数は182人（先々週158人）と増加しています。このうち、70歳以上の高齢者が114人（63.0%）を占めています（図5）。

入院患者数も先週末時点で317人（5月1日時点253人）と増加に転じており、このうち酸素投与など中等症患者についても160人（5月1日時点131人）と増加しています。気管挿管など重症患者は6人となっています（5月1日時点2人）（図6）。この他、社会福祉施設で療養されている陽性者が、先週末時点で38施設176人（5月1日時点214人）とこちらは減少しています（図7）。

なお、先週末時点における確保病床の病床占有率は、沖縄本島50.9%（265/521）、宮古地区37.9%（25/66）、八重山地区6.8%（3/44）となっています。宮古における病床占有率が急速に高まっています。

【今後の見通しと対策】

沖縄県では、もともと親族や地域の交流が活発であり、大型連休をきっかけに感染が加速したと考えられます。また、オミクロン株となってからは、全国的に子どもでの感染が広がっていますが、とくに沖縄県は人口に占める子どもの割合が全国一高く、兄弟の数も多いことから家庭内感染のリスクも高いと考えられます。なお、沖縄県では、ゲノム解析を実施した検体の9割以上が感染力の強いとされる「BA2」系統のウイルスであり、沖縄県内の流行は「BA2」へと置き換わっていると考えられます。

大型連休入りするにあたって、沖縄県は、県民生活と社会経済に強い制限をかけない選択のもと、感染リスクの高い活動を減らすように呼びかけました。一定の抑止効果があった可能性はありますが、県内での感染は拡大しています。今週の新規陽性者数は13,000-19,000人となり、今週末までに入院患者数は410-480人に至り、うち重症患者数は8人前後と見込まれます（図8）。

今後、入院リスクの高い高齢者へ感染拡大が持続すると、今月中旬には病床不足が顕在化すると考えられます。その場合には、コロナ感染者に限らず必要な医療が提供できなくなります。いまは誰しもが感染しているかもしれないと考え、高齢者の家を訪問したり、一緒に食事をとったりするのを控えてください。また、3回目までのワクチン接種を終えてない高齢者は、今のうちに接種を済ませるようにしましょう。

現時点では、活動的な子どもや若者が感染の中心であり、ほとんどが軽症のまま回復するため、入院が必要な方への医療は確保されています。感染拡大を抑えるうえでは、重要なタイミングだと言えます。症状を有する方が外出を控えること、人に会わないこと。多人数での食事会をしないこと。マスクを外すようなイベントは延期すること。ただし、これらの呼びかけは繰り返されており、

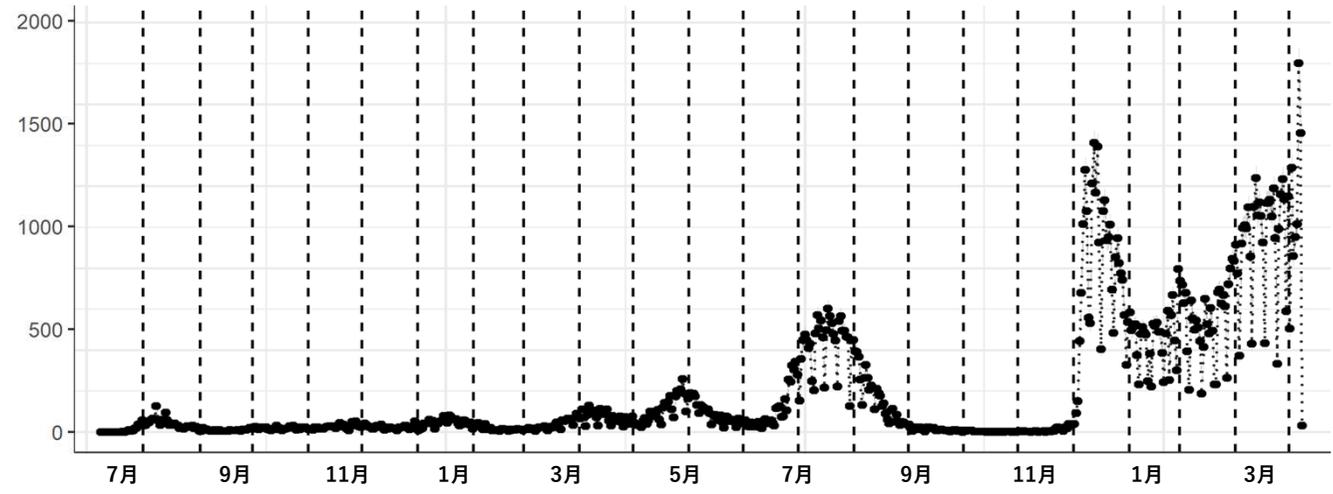
さらに強い制限を求めるべきかについて総合的な行政判断が求められます。

県内では、流行規模の拡大とともにPCR検査の予約が取りにくくなっており、一部の救急外来では受診制限または数時間待ちが常態化しています。50歳以下で基礎疾患のない若年層については、できるだけ抗原検査キットを活用いただき、市販薬による自宅療養に協力いただければと思います。とくに緊急性が高くない場合（症状は軽いが薬がほしい、日中は忙しいので夜にした、コロナかどうか検査してほしい）には、限りある夜間救急に対応を求めないようにしてください。ただし、息苦しさがある、食事がとれない、歩けないなど、症状が進行している場合には、迷わず救急受診をしてください。

図1 陽性者数の推移と実効再生産数 (北部、中部、南部)

陽性者数 (確定日)
日あたり観察値

北部、中部、南部医療圏
(宮古・八重山を除く)



実効再生産数
直近7日間平均値

北部、中部、南部医療圏
(宮古・八重山を除く)

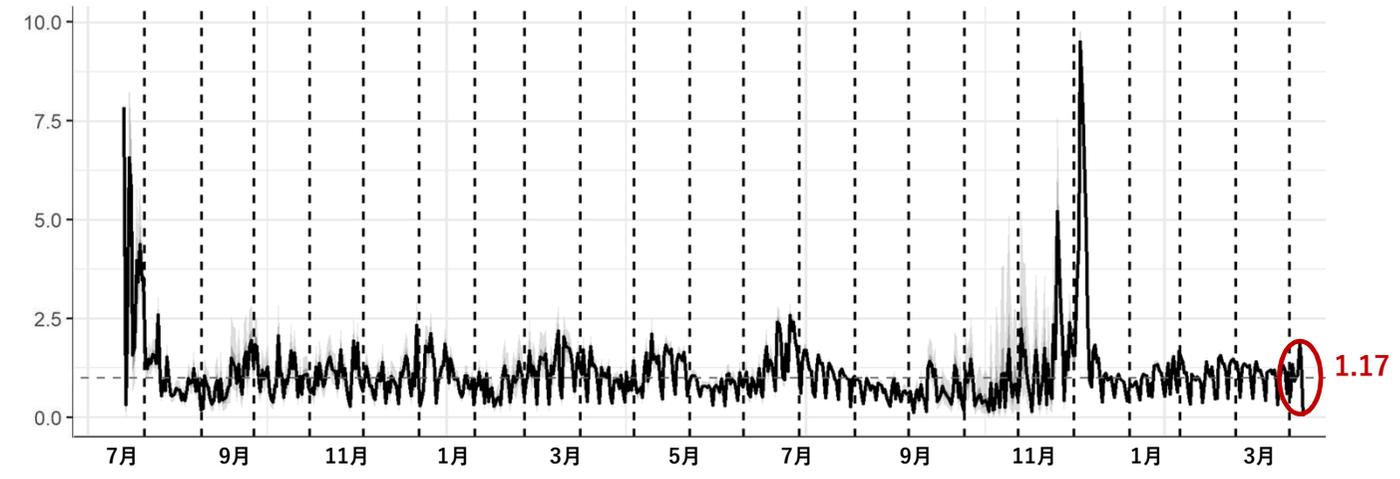


図2 性年齢階級別に見る陽性者数 (5月2日~8日)

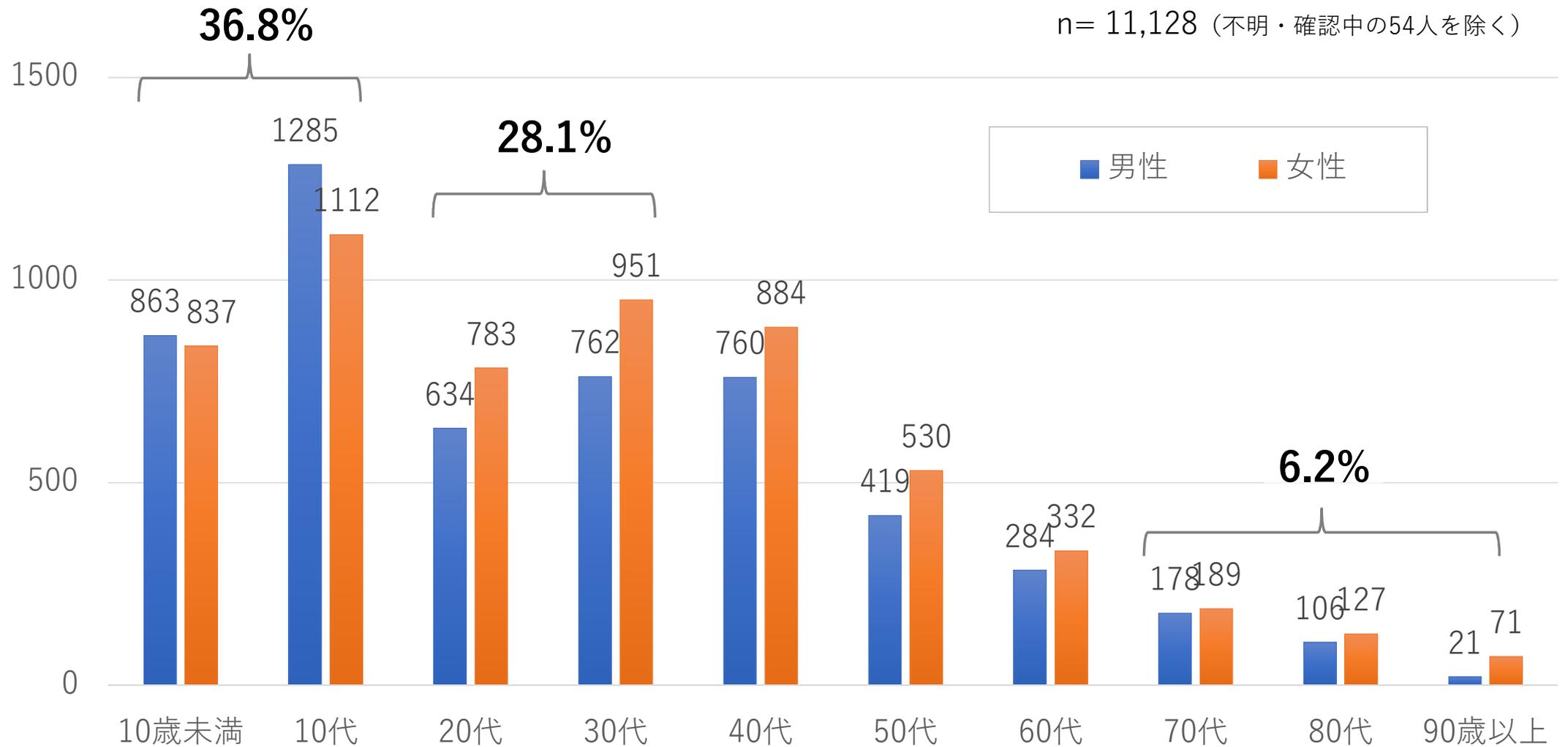


図3 年齢階級別に見る新規陽性者数の推移 (人口10万人あたり7日間合計)

まん延防止等重点措置



10代が第6波を越えて増加が続いており、先週より高齢者もやや増加へと転じている。

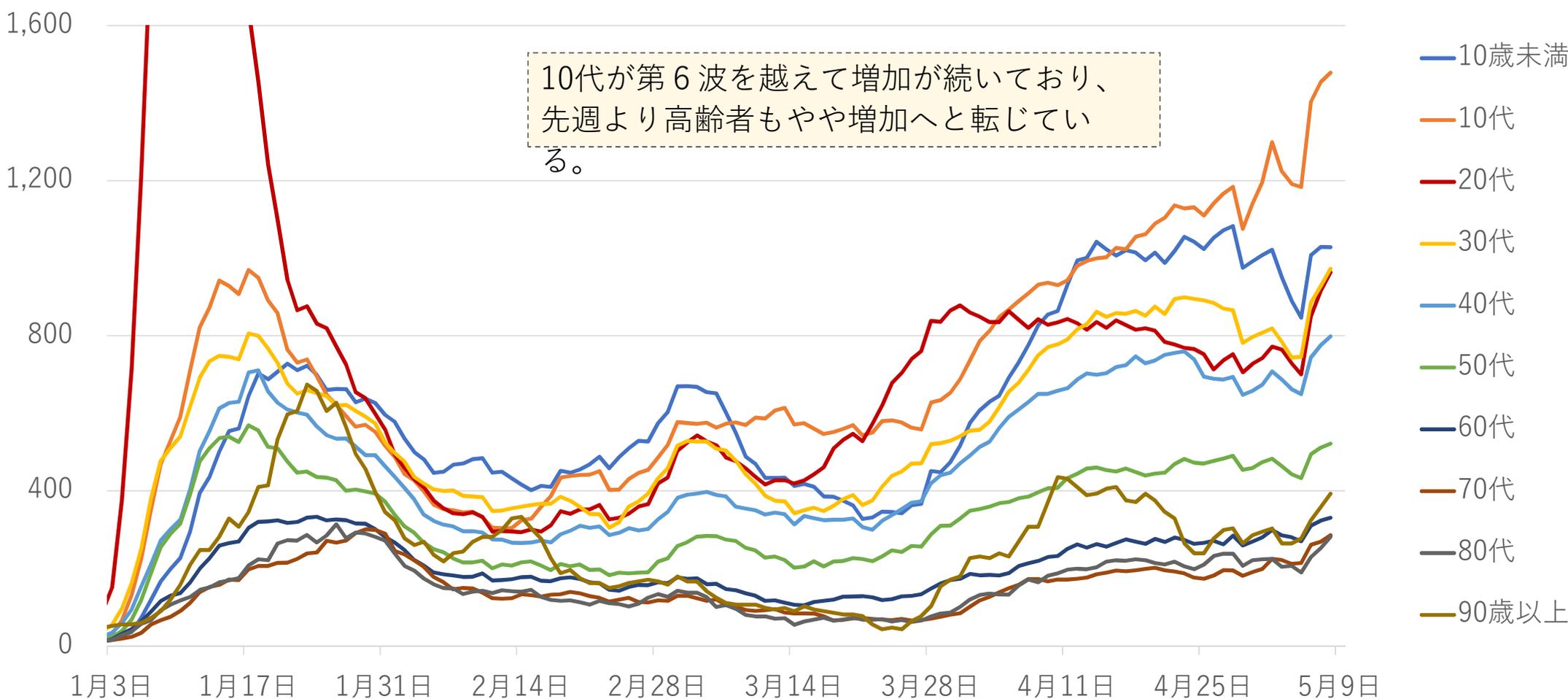


図4 保健所管区別に見る新規陽性者数の推移（沖縄県）

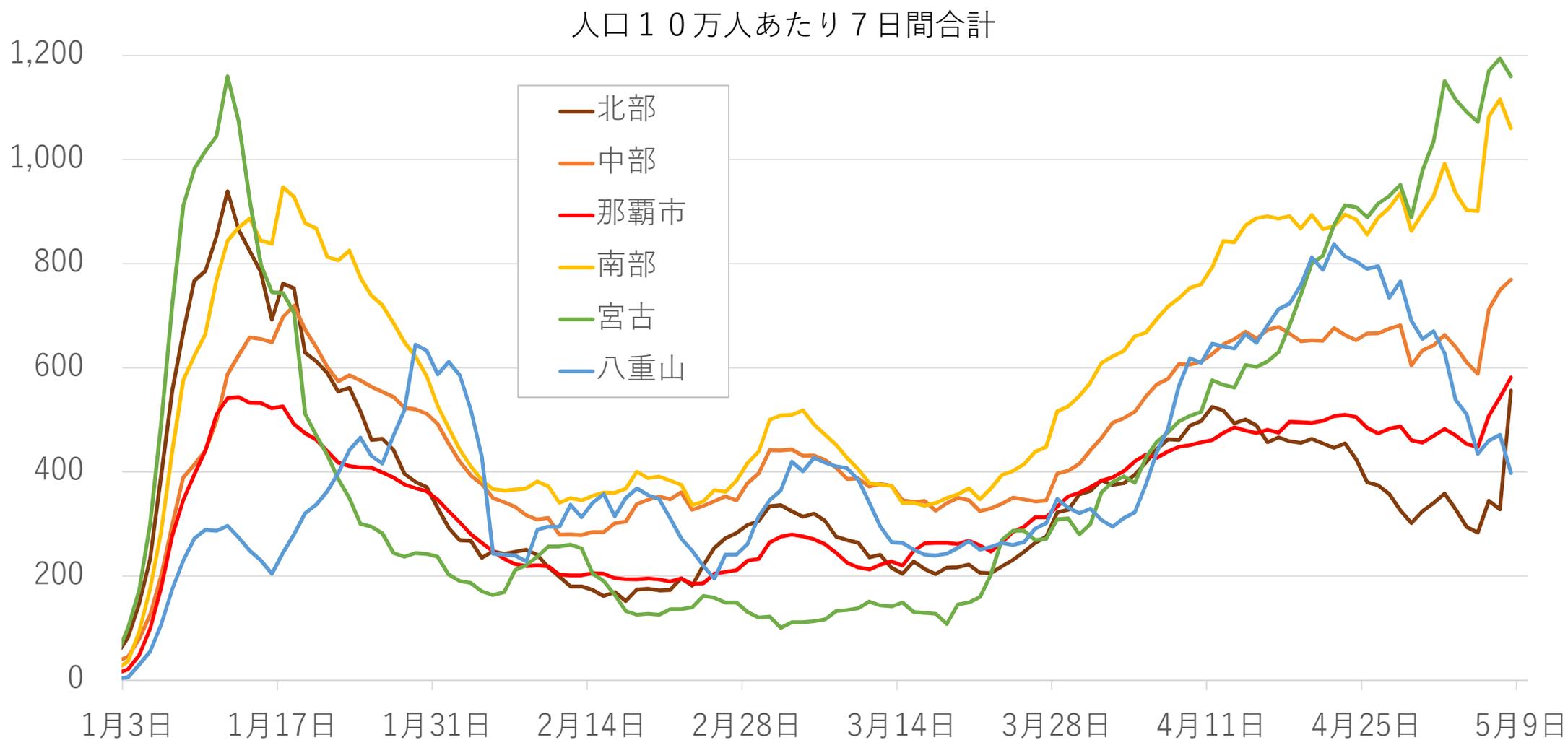


図5 重症度別入院患者数と施設療養者数の推移

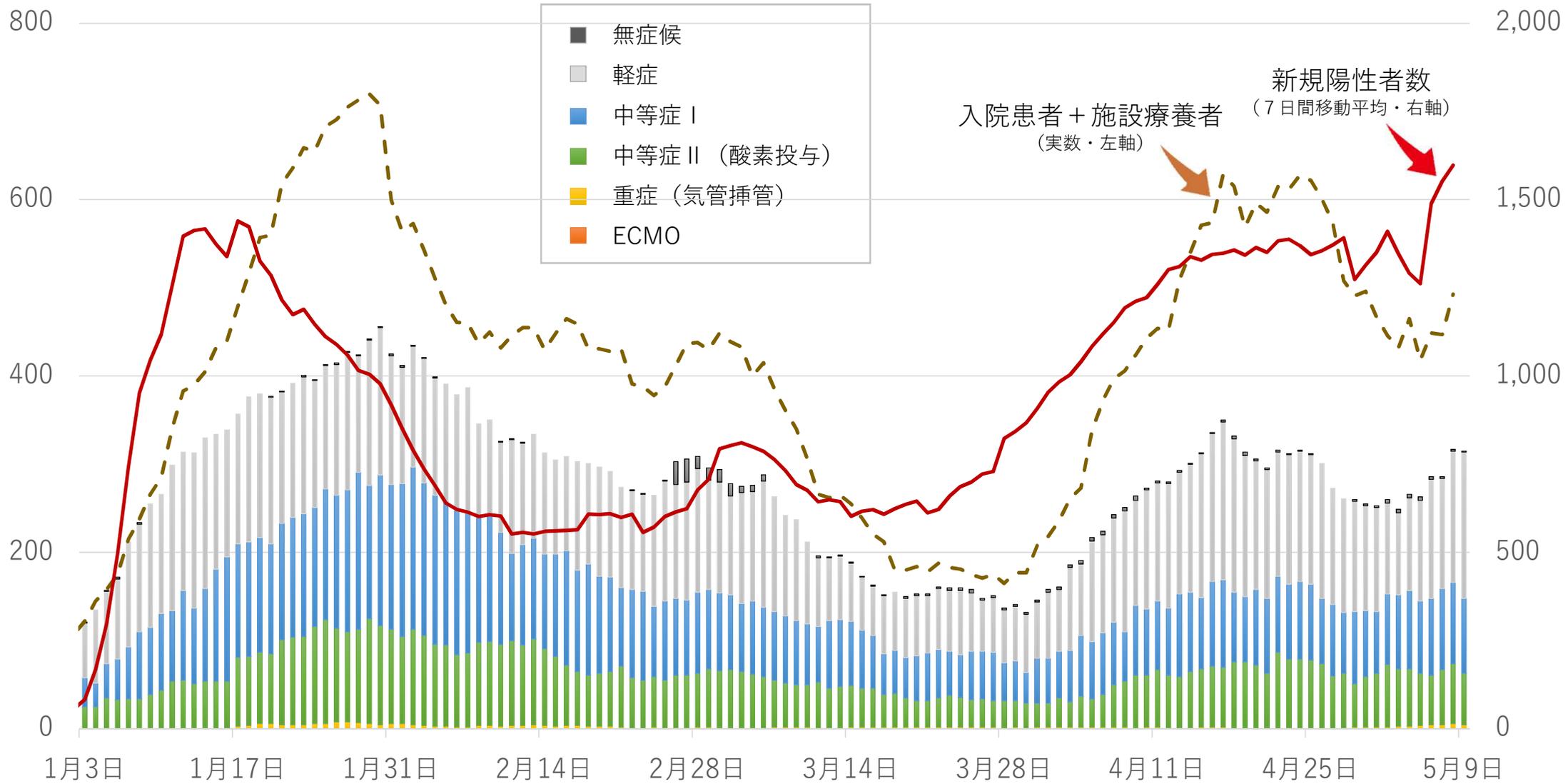


図6 新規入院患者の年齢分布 (5月2日~8日)

n= 181 (不明・確認中の1人を除く)

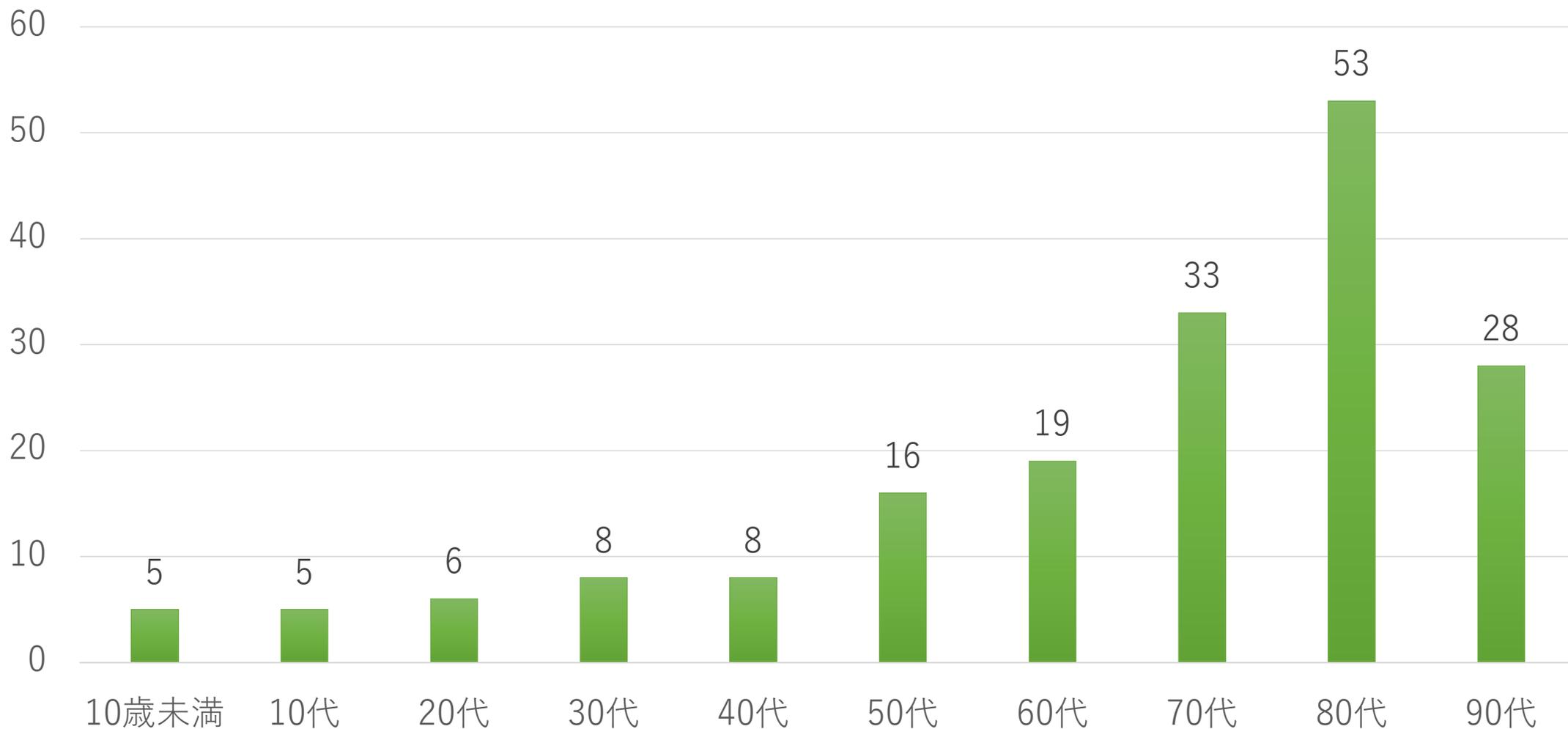


図7 社会福祉施設における施設内療養者数

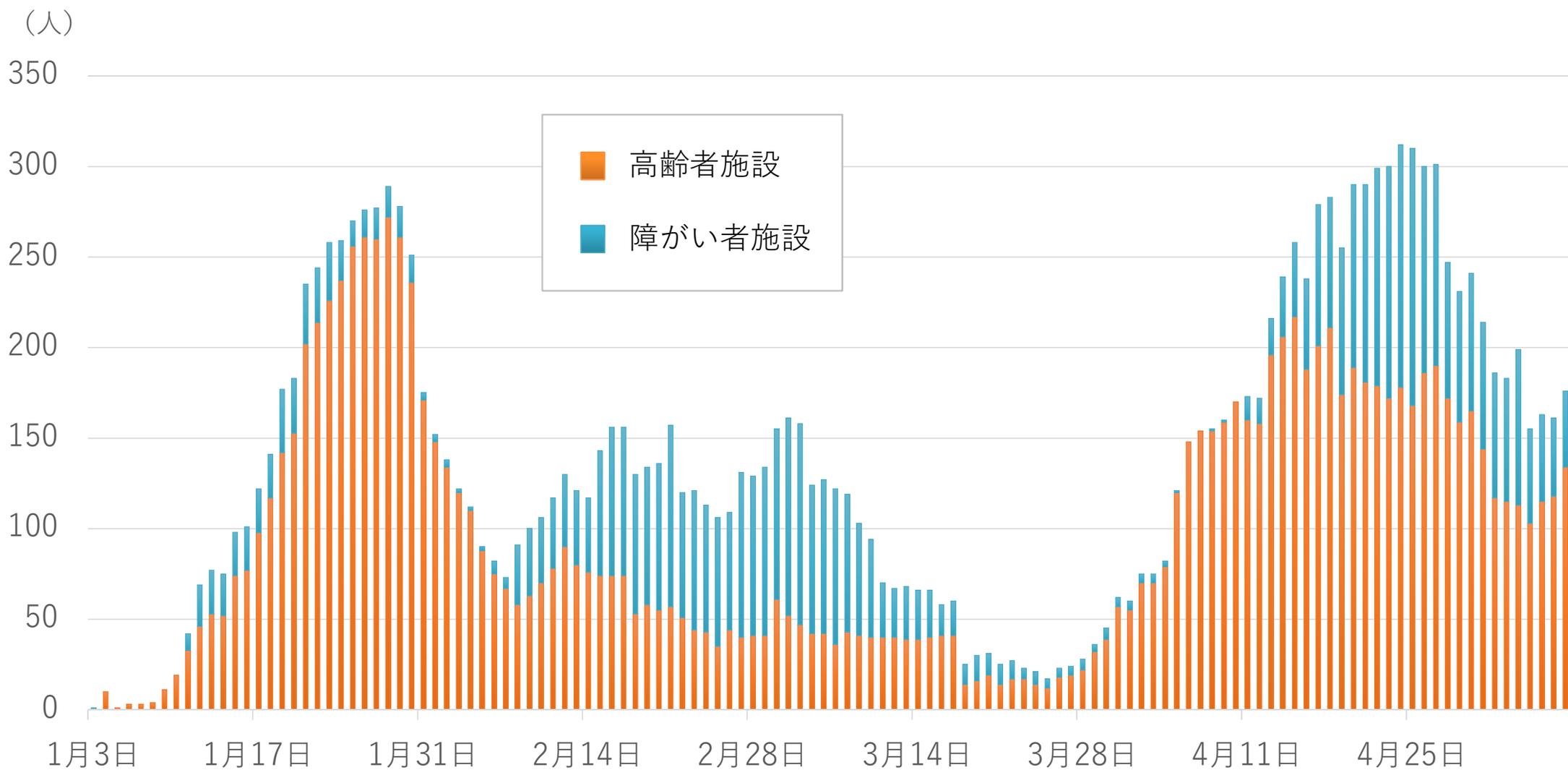


図8 今後1週間（5月9日-15日）の発生見込み数

分析データ： 新規陽性者数、年齢群別・医療県別入院率； 沖縄県
 年齢群別重症化率； 厚生労働省
 平均期間（入院・重症）； HER-SYS

	新規陽性者数（確定日）			入院患者数※			重症患者数※		
	1.0	1.5	2.0	1.0	1.5	2.0	1.0	1.5	2.0
実効再生産数	1.0	1.5	2.0	1.0	1.5	2.0	1.0	1.5	2.0
北部	335	675	1,358	24	30	40	0.2	0.2	0.4
中部	3,720	7,491	15,085	116	159	232	3.6	4.1	5.0
那覇市	2,211	4,452	8,966	96	125	174	1.4	1.7	2.3
南部	3,540	7,129	14,355	101	143	213	1.7	2.2	3.1
宮古	655	1,319	2,656	32	44	62	0.3	0.5	0.7
八重山	255	514	1,034	9	13	20	0.1	0.2	0.3
合計	10,716	21,579	43,456	379	514	741	7.2	8.9	11.8

※ 5月15日時点の見込み数

沖縄県疫学・統計解析委員会